

## 第8週

質問 24. 使徒信条の箇条はどのように分けられますか。

答え I 三つに分けられます

第一、私たちの創造主なる、父なる神と、

第二、私たちの贖い主なる、御子と、

第三、私たちの聖化主なる、聖霊についてです。

① 使徒信条は 12 箇の箇条となっておりますが、内的関連性によって、三つの部分に分けられます。この区分は、神の位格に従ってなっています。三位の神は父、子、聖霊ですが、これは単純な名ではないのです。神の本質を指しています。三位の神が私たちに重要なのは、私たちの救いの根拠になるからです（マタイ 28:19、イザヤ 45:21-24、ホセア 1:7、テトス 3:4）。

② 従って、ただ神がおられるという自然的知識によっては、救いに至ることはできません。神がどなたなのかについて、具体的な知識があるべきです。私たちはその名を通して、神がどなたなのかを知ることです。「主」という名は、自らおられる方だという意味です（出 3:14）。「アドナイ」という名は「主」と

翻訳されていますが、神の主権を現しています。「エル」という名は、無限なる力を現しています。また、私たちは神の属性を通して神がどなたなのかを知るべきです。神はすべてに満ち、完全な方です。そして神は無限で、力があり、栄光にあふれる方です。

③ 私たちは、救いの根拠となられる三位の位格について、そして、その方がなされた働きについて知るべきです。父は、すべての万物の始まりであり、終わりです。それで創造主・神と呼ばれます（ロマ 11:36、1 コリント 8:6）。父は私たちを造り、私たちを保たせます。私たちの父となり、すべての良い物を供給してくださいと約束しました。

御子は仲保者、あるいは、父のしもべとも呼ばれますが、罪人たちを贖い、父の御前に導く働きをされます（イザヤ 49:3、1 ペテロ 3:18）。御子が罪人を贖われる方法は、ご自身の血によって私たちの罪を洗うことです。聖霊は、父と子がなされた働きを罪人たちに有効に適用させ、聖くさせる作業をなさいます（ヨハネ 18:13-15）。聖霊は私たちを聖なる者とし、永遠の祝福に導きます。つまり、私たちの贖いを完成させます。

結局、父は愛によって、子はその恵みによって、聖霊は交わりの中にあって罪人を救うのです（Ⅱコリント 13:13）。そして、聖霊の中にあって、御子によって、父のみもとに近づくことができるのです（エペソ 2:18）。三位の神が、私たちの救いのためになされた働きは、信仰によって理解できることなので、私たちはそれを信頼し、告白するのです。

質問 25. 神は、ただひとつの本質なのに、なぜ父、子、聖<sup>01</sup>霊と呼ぶのですか。

答え I それは、神がご自身についてそのように、これら三つの位格が、唯一まことの永遠の神であると、その御言葉において啓示なさったからです。<sup>02</sup>

① 三位一体という単語は、聖書に出ませんが、これは、聖書が語っている教理であり、キリスト教信仰において一番、根本的な教理です。私たちは目に見えない神を、神ご自身が啓示なさったことを通して知ることができます。私たちは創造物を通して神がおられることを一般的に知ることはでき、良心を通して神は、正しい方として、罪と悪に対して審判なさる方だと知ることができます。しかし私たちは、ただ神の御言葉によって神についての完全な知識を得られます。神はご自身のことを、ご自身の御言葉において啓示なさったからです。

② ところが、神は特別に、その御言葉において、ご自身がただ永遠の神であると啓示なさいました。一つの本質の中に三位としておられます。三位はただ三つの名ではなく、位格の属性によって互いに区別されます。神の働きは三位に帰せられます。創造の働きは父の働きですが、子と聖霊にも帰せられます（ヨハネ 1:1-3、創 1:2）。贖いの働きは、特に御子による働きであって、聖化は聖霊の働きですが、父にも帰せられます（ホセア 1:7、テトス 3:4-6、ユダ 1:1）。それにも関わらず、三位は、その働きにおいて、秩序と働きの方法があります。

---

01 申命記 6:4、イザヤ 44:6, 45:5、1 コリント 8:4、6.

02 創世記 1:2-3、イザヤ 61:1, 63:8-10、マタイ 3:16-17, 28:18-19、ルカ 4:18、ヨハネ 14:26, 15:26、Ⅱコリント 13:14、ガラテヤ 4:6、テトス 3:5-6.

③ 父は、万物の始まりと終わりを主管なさり（ロマ 11:36、1 コリント 8:6）、御子は、仲保者として罪人を神に導く贖いの働きをなさいます（イザヤ 49:3、1 ペテロ 3:18）。聖霊は、御父と御子の働きを、罪人たちに有効に適用させます（ヨハネ 18:13-16）。三位は、罪人を救うために論議なさっただけでなく（エペソ 1:11）その働きが実現するまで、各々特別な働きを担います。恵みの属性は御子に、愛は父に、そして交わりは聖霊によって出ます（Ⅱコリント 3:13）。

④ 三位一体・教理は、人間の理性によって説明できない神秘 *mystery* です。神の御言葉は、三位一体・教理を豊かに証ししています。神の御言葉が教えてくれるのは、罪人の救いが、三位の神から起因しているという事実です。罪人の救いの体験は、御子によって、聖霊の中にあって、父に導かれます（エペソ 2:18）。従って私たちの考えと理解を、神の御言葉の前に屈服させなければならないのです。神のうちに、どのような矛盾があると言ってはなりません。

⑤ 結局、三位一体・教理は、私たちの敬虔のために重要です。御子から来る恵みなしでは、父から来る愛はなく、そして聖霊によって来る、上からの交わりがなければ、まことの敬虔はありません。敬虔の力は、神との交わりの実行から来ることだからです（コロサイ 3:3）。

私たちは、私たちの救いのために働き、救いの恵みを施す三位の働きに対して感謝すべきです。そして、さらに進んで、神のなさるすべての働きと御業とが、すべては理解できないことを悟って、神の力について、疑ったり、不敬の言葉を言ってはなりません。神の尊厳、権威、支配について、全く讚美し感謝すべきです（ユダ 1:24-25）。